

福岡県沿岸における鯨類のストランディングレコード (2012~2022)

Stranding records of cetaceans in Fukuoka Prefecture(2012~2022)

○野間重和, 中村雅之, 塚田仁次, 藤丸郁(海の中道海洋生態科学館)

○Shigekau Noma, Masayuki Nakamura, Masatsugu Tsukada, Kaoru Fujimaru
(MARINE WORLD uminonakamichi)

【Introduction】

福岡県沿岸における鯨類の漂着・混獲・迷入等の事例について報告する。

過去の日本セトロジー研究会で報告した1989年~2011年の23年間のストランディングレコードと合わせて、今回は2012年~2022年までの11年間のストランディングレコード概要を報告する。

【Materials & Methods】

福岡県沿岸での鯨類のストランディングのうち、当館係員が確認した事例のみをデータとして集計した。

【Results & Discussions】

2012年~2022年までの11年間で11種、58件の事例に対応した。このうち生存9件(16%)、死亡49件(84%)であった。状況は、漂着36件(62%)、混獲17件(29%)、漂流2件、迷入、座礁、漂流→漂着が各1件であった。生存対応したのは混獲7件(78%)、座礁1件(11%)、迷入1件(11%)であった。対応した種別では、スナメリ(*Neophocaena asiaeorientalis*)が最も多く36件(62%)、以下バンドウイルカ(*Tursiops truncatus*)6件(10%)、オガワコマッコウ(*Kogia sima*)4件(7%)、ハナゴンドウ(*Grampus griseus*)3件(5%)、コビレゴンドウ(*Globicephala macrorhynchus*)、マッコウクジラ(*Physeter macrocephalus*)、ミンククジラ(*Balaenoptera acutorostrata*)、ユメゴンドウ(*Feresa attenuata*)、ナガスクジラ(*Balaenoptera physalus*)、オウギハクジラ(*Mesoplodon stejnegeri*)、ハセイルカ(*Delphinus capensis*)各1件、不明2件であった。月別では、3~6月が35件(60%)と多くを占めた。海域別では、玄界灘28件(48%)、豊前海16件(28%)、博多湾10件(17%)、有明海3件、筑後川1件であった。

1989年から2011年、23年間では15種124件の事例に対応した。このうち、生存は24件(19%)、死亡は100件(81%)であった。状況としては、漂着が73件(58%)、混獲が23件(18%)その他漂流、迷入などであった。生存対応したのは混獲6件(25%)、座礁7件(29%)、迷入11件(46%)であった。種別では、前述の11種に加えカマイルカ(*Lagenorhynchus obliquidens*)、シワハイルカ(*Stenobredanensis*)、スジイルカ(*Stenella coeruleoalba*)、コブハクジラ(*Mesoplodon densirostris*)の確認があった。この期間でもスナメリが85件(68%)と多くを占めた。月別でも、3~6月の対応が57件(46%)と対応件数の約半数を占めた。海域別では、玄界灘82件(66%)、豊前海23件(19%)、博多湾19件(15%)であり、有明海での対応は無かった。

1989年から2022年までの対応で2002年の12件が最も多く、1992年、2021年の1件が最も少なかった。2021年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、外出が制限されていたために連絡が少なかったのではないかと推察した。

1989年から2011年までの23年間での年平均対応件数は5件であったが、2021年、2022年は2年連続で平均を下回っていることもあり、再度情報ネットワークの整備を進めデータの収集力向上と、分析、共同研究に取り組んでいきたい。